

VI どこでも医療講座

- ・ 広報誌

どこでも医療講座

主事 柿木 洸弥

1 概要

「どこでも医療講座」とは、地域住民の希望に応じて、当院の担当職員を講師として派遣し、講座を開催するものです。

当院の職員が持つ、専門分野の知識を広く周知することで、地域住民の保健・医療・福祉に対する意識や知識の向上に寄与することを目的として行っています。

2 活動実績等

新型コロナウイルスが収束してきたこともあり、全て実地での開催となりました。

依頼件数：19件、そのうち実施件数：16件、総参加人数：210人となります。

今年度の活動を通し、多くの地域住民の方々に当院の職員が持つ知識を広めることが出来たと考えております。

来年度は演題も多く追加されるため、引き続き積極的に活動していきたいと思っております。

令和5年度「どこでも医療講座」開催実績

No.	年月日	曜日	時間	団体	会場	演題	演者	実績 (参加者数)	備考
1	R5.5.15	月	10:00~11:00	中里6区 長生きサロン「元氣いきいき教室」	中里6区集会所「さわっこ」	インフルエンザなどの感染症予防について	看護師長補佐 松澤亮	20	
2	R5.7.12	月	14:30~15:30	萩荘6区サロンすいせん 萩荘7区サロンかたくり	萩荘市民センター	骨粗しょう症について ～目指せ骨美人 防ごう骨卒中～	整形外科長 千田優子	14	
3	R5.7.27	月	13:30~14:30	クラリス保育所	特別養護老人ホームクラリス	子どもよろず相談	小児科医師 金森啓太	10	同内容1回目
4	R5.8.24	月	13:30~14:30	クラリス保育所	特別養護老人ホームクラリス	子どもよろず相談	小児科医師 金森啓太	13	同内容2回目
5	R5.11.6	月	10:00~11:00	中里6区 長生きサロン「元氣いきいき教室」	中里6区集会所「さわっこ」	減塩食について	管理栄養士 菅原あかり	26	
6	R5.11.9	木	13:30~14:30	クラリス保育所	特別養護老人ホームクラリス	子どもよろず相談 (小児の心肺蘇生法：BLS)	小児科医師 金森啓太	8	同内容1回目
7	R5.11.10	金	14:00~15:00	船江地区保育協議会 看護師部会	水沢地区センター	子どもよろず相談 (こんな時どうする？応急処置を知ろう)	新生児集中ケア認定看護師 四垂真弓	9	
8	R5.11.16	木	10:00~11:00	萩荘3区 笑福サロン	萩荘市民センター	寿命を考えてみませんか？ そして緩和ケアのススメ	緩和医療科長 平野拓司	17	
9	R5.12.7	木	13:30~14:30	クラリス保育所	特別養護老人ホームクラリス	子どもよろず相談 (小児の心肺蘇生法：BLS)	小児科医師 金森啓太	6	同内容2回目
10	R6.1.16	火	13:30~14:30	平泉町保健センター	学習交流施設エビカ	減塩食について	管理栄養士 菅原あかり	14	
11	R6.1.19	金	11:00~12:00	(萩荘地区) 八起島パワフル体操	八起島公民館	寿命を考えてみませんか？ そして緩和ケアのススメ	緩和医療科長 平野拓司	15	
12	R6.2.6	火	14:00~15:00	一関地区保育協議会	一関文化センター	子どもよろず相談	小児科医師 金森啓太	16	
13	R6.2.14	水	13:30~14:30	萩荘7民区	上大桑公民館	減塩食について	管理栄養士 菅原あかり	10	
14	R6.3.6	水	10:00~11:00	萩荘6区サロンすいせん	萩荘6区コミュニティセンター	もしもの時の心づもり	がん専門看護師 千葉 美穂	7	
15	R6.3.13	水	13:30~14:30	萩荘7区サロンすいせん	上大桑公民館	もしもの時の心づもり	がん専門看護師 千葉 美穂	9	
16	R6.3.14	木	10:15~11:15	江川ほのほのサロン	江川公民館	乳がんを早く見つけよう	乳がん看護師 佐藤 美智子	16	

3 演題一覧



「どこでも医療講座」演題リスト□

R5.4月更新

No.	演 題	サマリー	担当部門
1	ヘルニア、いぼ痔、大腸がんの治療について	傷の少ない手術などの治療法についてご説明いたします。	外科
2	禁煙のすすめ	受動喫煙などによる健康被害など、たばこの害についてご説明いたします。	外科
3	骨粗しょう症について ～目指せ骨美人 防ごう骨卒中～	骨粗しょう症についての危険性について説明いたします。	整形外科
4	寿命を考えてみませんか？ そして「緩和ケア」ノススメ	いずれ訪れる「寿命」。その時あわてないように、一度、「寿命」にじっくりと向き合ってみませんか。そして、「がん」になっても、落着いて過ごすためには、「緩和ケア」がオススメ！	緩和医療科
5	おくすりの正しい使い方について	おくすりの使用方法、ジェネリック医薬品、お薬手帳について、定期的に流行するインフルエンザやノロウイルスなどの病気について等、お薬についての疑問にやさしくお答えします。	薬剤科
6	そうだったのか副作用！ ～抗がん剤編～	抗がん剤。なぜ副作用は起こるのか？そのメカニズムと予防や対処法をお話します。	薬剤科
7	乳がん検査 マンモグラフィー について	乳がんに負けないために、マンモグラフィーを知って乳がん検診を受けましょう。	放射線技術科
8	減塩食について	うす味でもおいしく食べられる調理のポイントをお話します。	栄養管理科
9	乳がんを早く見つけよう！	乳がんの病気について、乳がん検診の大切さや自己検診についてお話します。	看護科
10	磐井病院の“緩和ケア”	磐井病院で行っている緩和ケアについてお話します。	看護科
11	褥瘡（床ずれ）ってなあに？	褥瘡：じょくそう（床ずれ）についてわかりやすくお話します。	看護科
12	ストーマってなあに？	ストーマ（人工肛門）についてわかりやすくお話します。	看護科
13	がん化学療法について	副作用とうまく付き合っていくにはどうしたらいいのかお答えします。	看護科
14	退院後の母乳育児について	母乳育児についてもポイントについてお話します。	看護科
15	こんな時どうする？応急処置を知ろう	いざという時に役に立つ応急処置についてお話します。	看護科
16	糖尿病について	糖尿病についての皆さんの疑問についてお答えします。	看護科
17	手洗い教室	正しい手洗いの仕方をお教えます。	看護科
18	がんの痛み、痛み止めの使い方について	がんの痛みに対する痛み止めの効果的な使い方についてお話します。	看護科
19	磐井病院の機能と現状について	最新のデータをもとに当院の機能と現状について、わかりやすくお話します。	事務局
20	地域医療連携について	かかりつけ医機能をはじめとした地域医療連携について、わかりやすくお話します。	事務局
21	医療費のしくみ	病院の請求ってどうなってるの？・・・そんな疑問に医療保険制度とともにわかりやすくお話します。	事務局
22	インフルエンザなどの感染症予防について	インフルエンザなどの様々な感染症・・・効果的な予防方法をわかりやすくお話します。	院内感染対策チーム
23	検査データの見方・解釈を説明します	採血検査や尿検査等の臨床検査データの見方や解釈を簡単に説明します。	臨床検査技術科
24	がんによって起こる症状について	がんによって起こる吐き気・便秘・呼吸困難などの症状と対処法についてお話します。	看護科：専門・認定看護師
25	もしもの時の心づもり	誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やけがをすることがあります。もしもの時の心づもりについて、考えてみませんか？	看護科：専門・認定看護師
26	目の前の命を救う～心肺蘇生法～	あなたは目の前で倒れた人に手を差し伸べることはできますか？目の前の命を救えるのは、救急隊でも医師でもなく目の前のあなただけです。	BLSインストラクター・医師
27	子どもよろず相談	けいれん、発達、喘息などなど・・・テーマはリクエストに応じます！「お任せで」でもOKです。	小児科



連携いいわい

令和5年5月

第39号

岩手県立磐井病院

年頭のごあいさつ

岩手県立磐井病院長 佐藤 耕一郎



2006（平成18）年度に狐禅寺に新築移転してから17年が経過いたしました。患者さんと関係者の方々のご協力により、多少の波風はありますが、ほぼ順調に病院を運営できていることに対し、深く御礼申し上げます。

磐井病院は基幹病院であり、2次救急を中心とする急性期医療の担い手として、「がん治療」を初期から終末期まで行う高度の診断、治療技術を持ち、終末期は緩和ケア病棟でのケアを行う病院としての役割を担っております。また、両磐圏域の福祉・介護施設との連携を行う地域医療支援病院や将来の専門医を育てる臨床研修病院としての役割を持ち、さらに安全な分娩から成人に達するまでの小児科領域の中心となる病院等、多岐の命題を担っております。

2018年6月に医療相談・入退院支援等を含めた「患者支援センター」が開設され、入院前から外来で患者さんに入院生活のオリエンテーションを行い、患者情報（入院前のサービス利用等）や内服薬を確認し、リスクアセスメント、退院支援スクリーニングを実施することで、患者さんは入院生活や治療経過をイメージし、十分な準備した上で入院に臨むことができるようになりました。病院側は、患者個別の事情を事前に評価した上で患者さんを受け入れることができ、円滑な入院医療の提供につながります。また、2023年より入院される患者・ご家族の労力軽減、院内感染予防等を目的に入院セットを導入し、手ぶらでの入院を可能として現在9割の方が利用しております。

産婦人科は、少ない医師数で年間578件と県内でも有数の高い分娩数を維持しており、小児科は現在6名体制で、両科ともに両磐圏域だけでなく、胆江圏域や宮城県北など広域医療圏をカバーしております。

整形外科は6名体制となり、脊椎や下肢の専門家が常在し、東北でも有数の手術件数の多い病院となっております。消化器科は症例数のかなり多い分野でもあり、昨年より医師が2名プラスとなり、大腸癌による腸閉塞が多いというこの地区の問題を少しでも解消するべく頑張っております。また、痛み等で大腸内視鏡が入りづらい患者さんのために、CTによる仮想内視鏡システムを導入しており、あまり痛い思いをしないで大腸がんを発見できるようになりました。外科も腹腔鏡を使用した手術件数が大きく開腹を上回るようになり、手術の低侵襲化が進んでおります。それに従い麻酔科医も3名から5名に増員し、臨時手術にも迅速に対応しております。

<岩手県立磐井病院 理念>

地域と連動し、患者さんにやさしく、質の高い安全な医療を提供します

<岩手県立磐井病院 基本方針>

- ①十分な説明と同意のもと、患者さん中心の医療を提供します。
- ②常に最新の医療を求め、高度でかつ専門的な医療を提供します。
- ③患者さんの安全を最優先としたチーム医療を提供します。
- ④地域医療と連動し、患者さんの健康増進、救急医療の充実に努めます。
- ⑤豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人の共育を行いながら育成します。
- ⑥職員一人一人が自覚を持って健全な病院経営に努めます。
- ⑦新しいことはデータに従って理論的に行い、必ず施行後に検証を行います。

Contents

- 年頭のごあいさつ・・・1・2
- 新任医師・研修医紹介・・・3・4



循環器科は既存の手技に加え、ECMOを導入し、今まで助けられなかった人を助けられる体制を構築しつつあります。

また、当院は、脳神経内科、脳神経外科を中心に1次脳卒中センターとなっており、血栓溶解剤での内科的治療が可能となっておりますが、今年度デュアルタイプの血管撮影装置が導入される予定で、これにより血栓を直接除去する血管内治療ができる病院にグレードアップする予定です。

昨年度、強度変調放射線治療（IMRT）ができる装置を導入しました。これは照射野の放射線に強弱をつけ、腫瘍に対して集中的に照射を行うことができる方法であり、特に、歪な形の腫瘍に対してもその形に合わせて放射線を照射することが可能です。現在、前立腺癌への照射症例が多く、放射線科が担当しておりますが、泌尿器科でも照射が直腸などに影響を与えないようにハイドロゲル直腸周囲Spacerを放射線治療施行前に挿入し、副作用を未然に防いでおります。

また、アレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎に対する内視鏡による外科的治療を耳鼻咽喉科で行っており、毎年季節的に鼻の症状で悩まされている方にとっては朗報になると思われまますので、ご相談くださいますと幸いです。

新型コロナ対策では、発熱を伴う患者さんの対応に時間がかかり、特に救急科の負担が大きくなっておりますが、今年度より1名減となるため、パフォーマンスの低下を危惧しておりました。しかし、5月8日からの5類への変更に伴い、コロナを疑う発熱者はどこの病院でも診ることができるようになり、負担の軽減になるのではと考えております。また、重点医療機関である当院は、5月から主に中等症IIと重症患者さんを入院させる病院となります。ただし、小児、妊婦を診る入院医療機関が他にないことから、小児、妊婦に関しては軽症から中等症Iも入院の対象となります。

当院には新型コロナを診る呼吸器内科医は1人しかおらず、多忙を極めておりますので、一関市が示す分担案に沿った患者紹介、入院をお願いします。

昨年度より、地域連携パスの内容を改訂し、さらに他病院とのコミュニケーションを図ることにより、脳卒中と大腿骨骨折の地域連携パスが回るようになってきました。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今後も、当院は「地域と連動し、患者さんにやさしく、質の高い、安全な医療を提供します」という基本理念のもと、地域医療への貢献、更なる経営改善の取組み、及び多職種による地域の医療・介護・福祉との連携に努めて参ります。

当院は、地域に必要な医療を担う一つの歯車として、効率良くかつ質の高い医療を提供し、地域の皆様のお役に立てますようさらなる努力する所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



2023年度新任医師・研修医の紹介



(かしわだて としあき)

氏名：柏館 俊明
 役職名：消化器外科長
 出身大学：日本大学

所属学会：日本外科学会（外科専門医）、日本消化器外科学会（専門医、指導医）日本消化器病学会（専門医）

専門分野：消化器外科、肝胆膵外科、移植外科
ひとこと：東北大学では肝、膵、腎に対する移植医療と原発性肝癌に対する外科治療を中心に行っておりました。磐井病院には十数年ぶりに戻って参りました。両磐地区の地域医療に貢献すべく頑張りますので、よろしくお願いします。

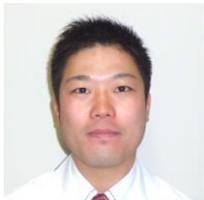


(たまのい たかし)

氏名：玉野井 喬
 役職名：歯科口腔外科医長
 出身大学：奥羽大学

所属学会：日本歯科麻酔学会、日本障害者歯科学会
専門分野：歯科麻酔

ひとこと：4月に福島県からやって来ました、玉野井 喬（たまのい たかし）と申します。今後は皆さんと一緒に働くことを楽しみにしております。趣味は旅行とキャンプです。今後は岩手の自然を満喫しながら仕事に励んで参ります。どうぞよろしくお願いします。



(しょうばら しゅういち)

氏名：庄原 秀一
 役職名：循環器内科医長
 出身大学：弘前大学

所属学会：日本内科学会（内科専門医）、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本循環器学会、日本心臓病学会

専門分野：循環器一般
ひとこと：初期研修医の時からお世話になっていた磐井病院にまた戻って参りました。皆さまのお役に立てるよう頑張りますので、何卒よろしくお願いします。



(あべ ももこ)

氏名：阿部 桃子
 役職名：形成外科医長
 出身大学：東京女子医科大学

所属学会：日本形成外科学会

専門分野：形成外科一般
ひとこと：丁寧な診療を心がけます。宜しくお願い申し上げます。



(さとう ひろあき)

氏名：佐藤 宏陽
 役職名：整形外科医長
 出身大学：山形大学

所属学会：日本整形外科学会、日本整形外科学スポーツ医学会、日本臨床スポーツ医学会

専門分野：膝、スポーツ
ひとこと：よろしくお願いします。



(まちだ ありさ)

氏名：町田 愛里沙
 役職名：泌尿器科医長
 出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡、ロブティクス学会、日本小児泌尿器科学会、日本透析医学会

専門分野：泌尿器科一般
ひとこと：まだまだ未熟ですが精一杯尽力させていただきます。よろしくお願いします。



(きくち しゅんけい)

氏名：菊池 俊慧
 役職名：麻酔科医長
 出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本麻酔科学会、標榜医

専門分野：麻酔科
ひとこと：この度、岩手に育ててもらったご恩を返すために戻ってきました。微力ながら地域貢献につながる様、努力していきますのでよろしくお願いします。



(ありが やすき)

氏名：有我 泰樹
 役職名：消化器内科医長
 出身大学：秋田大学

所属学会：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

専門分野：消化器内科
ひとこと：患者さんに寄り添った医療を提供できるよう頑張ります。



(おおた あいり)

氏名：太田 藍理
 役職名：歯科医師
 出身大学：岩手医大

所属学会：日本口腔外科学会、日本口腔科学会

専門分野：口腔外科
ひとこと：一関で信頼の置ける歯科医師となれるよう頑張ります。2年間宜しくお願いします。





(おおき ゆうすけ)

氏名 : 大木 佑亮

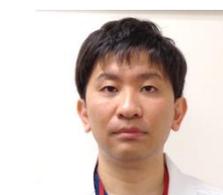
役職名 : 外科医師

出身大学 : 岩手医科大学

所属学会 : 日本外科学会

専門分野 : 外科一般

ひとこと : 納得のできる医療の提供を目指し、地域の皆様の健康のために全力で貢献したいと考えています。



(かわむら たつや)

氏名 : 川村 竜也

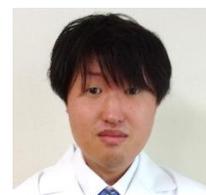
役職名 : 泌尿器科医師

出身大学 : 山梨大学

所属学会 : 日本泌尿器科学会

専門分野 : 泌尿器一般

ひとこと : 精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



(ちば しゅうへい)

氏名 : 千葉 周平

役職名 : 循環器内科医師

出身大学 : 山形大学

所属学会 : 内科学会

専門分野 : 循環器内科

ひとこと : 岩手の医療に貢献したいです。



(たかはし りょう)

氏名 : 高橋 諒

役職名 : 整形外科医師

出身大学 : 山形大学

所属学会 : 日本整形外科学会 (申請中)

専門分野 : 整形外科一般

ひとこと : 患者さん一人一人との信頼関係を大切にします。



(みなかわ まさひろ)

氏名 : 皆川 雅博

役職名 : 消化器内科医師

出身大学 : 岩手医科大学

所属学会 : 日本内科学会、日本消化器病学会、消化器内視鏡学会

専門分野 : 消化器内科

ひとこと : 毎日少しずつ成長できる様に頑張ります。



(ごとう かん)

氏名 : 後藤 漢

役職名 : 消化器内科医師

出身大学 : 富山大学

所属学会 : 日本内科学会、日本心身医学会、日本心療内科学会

専門分野 : 心身医学

ひとこと : 自粛を続けます。



(のぐち いっき)

氏名 : 野口 一起

役職名 : 研修医

出身大学 : 東京医科大学

ひとこと : 一関の医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。



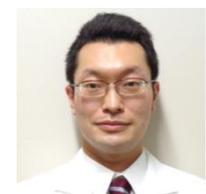
(いのうえ かな)

氏名 : 井上 かな

役職名 : 研修医

出身大学 : 聖マリアンナ医科大学

ひとこと : 1日でも早く医療者として、社会人として1人前になれるよう日々努力いたします。宜しくお願いします。



(ひらた ゆういちろう)

氏名 : 平田 雄一郎

役職名 : 研修医

出身大学 : 東北医科薬科大学

ひとこと : 一関を初めとした岩手県各地で医師として胸を張って医療に貢献していきたいと思ひます。



(せき まゆこ)

氏名 : 関 真裕子

役職名 : 研修医

出身大学 : 福島県立医科大学

ひとこと : 磐井病院で研修させていただけることを幸せに思ひます。毎日少しずつでも成長できるよう精一杯頑張りますので、ご指導宜しくお願いします。



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
病院ホームページ:<http://www.iwai-hp.com>
公式 Facebook:<http://www.facebook.com/iwaihp>

心 連携いいわい

令和5年7月
第40号
岩手県立磐井病院

総看護師長あいさつ

総看護師長 中村利江



令和5年4月より総看護師長に着任いたしました、中村利江と申します。この場をお借りし、皆さまにご挨拶する機会を頂けたことに、感謝申し上げます。

磐井病院看護科は「その人らしさを大切にした優しさや信頼のある看護の提供」という理念のもと、患者さん一人ひとりの思いや価値観を大切に、安心・安全・信頼を最優先に考え、質の高い看護を提供することを目指しています。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行により3年数ヶ月の間「施設訪問」や「出前講座」・「ふれあい看護体験」等地域の皆様とつながる機会を自粛せざるを得ない状況が続き、大変ご不便をお掛けしました。そのような中でも、常に快くご対応頂いたことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上2類相当から5類へ移行されたことを踏まえ、当院ではこの度、4年ぶりに高校生の皆さんを対象にふれあい看護体験を再開しました。生徒さん達のキラキラした眼差しに直接触れ、担当した看護師達も元気をもらい、私達は対面で言葉を交わし直接触れ合う事の重要性を再認識いたしました。まだまだ気の抜けない状況ではありますが、地域の皆様とも顔の見える関係作りを徐々に再開し、感染症流行以前から大切にしてきた事とコロナ禍の経験から得たものを糧につながりより強固なものにしていきたいと考えております。

また、当院には10領域・12名の専門・認定看護師が専門的知識・技術を活かし活動しております。院内での活動の他、地域のリソースナースとして医療機関や施設等活動の場を広げていきたいと考えております。お気軽にお問い合わせ、お声掛け下さい。

今後とも地域の医療・介護・福祉の発展に貢献できるよう連携・協働し合い、職員一丸となって地域の医療の充実・発展に取り組んで参ります。皆さま方より一層のご協力とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

<岩手県立磐井病院 理念>

地域と連動し、患者さんにやさしく、質の高い安全な医療を提供します。

<岩手県立磐井病院 基本方針>

- ①十分な説明と同意のもと、患者さん中心の医療を提供します。
- ②常に最新の医療を求め、高度でかつ専門的な医療を提供します。
- ③患者さんの安全を最優先としたチーム医療を提供します。
- ④地域医療と連動し、患者さんの健康増進、救急医療の充実に努めます。
- ⑤豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人の共育を行いながら育成します。
- ⑥職員一人一人が自覚を持って健全な病院経営に努めます。
- ⑦新しいことはデータに従って理論的に行ない、必ず施行後に検証を行ないます。

Contents

- 総看護師長あいさつ・・・1
- 「急変は急変ではない」・・・2
- 医療と介護の連携マニュアル・・・3
- 両磐地域緩和ケア
医療従事者研修会のお知らせ・・・4
- お盆休診のお知らせ・・・4

急変は急変ではない！

クリティカルケア特定認定看護師 小野寺 康



私は、2022年にクリティカルケア特定認定看護師の資格を取得しました。

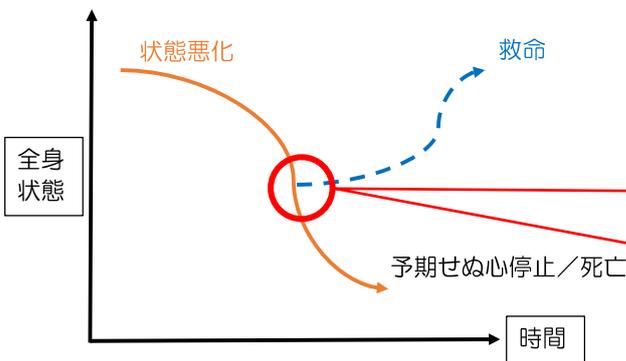
「クリティカルケア」とは救急外来や重症室（ICU）に限らず、急性期のケアを担う認定看護師の分野です。また、特定看護師とは2015年より開始された制度で、「看護師による特定行為研修」を修了した看護師です。手順書に従い、医師の指示を待たずに人工呼吸器の設定変更や点滴による血圧調整等を行うことができます。

認定看護師と特定看護師の両者の特性を活かして、救急・重症患者さんのケアを行っております。

今回は重症化する前に、「患者さんから発せられる徴候」について、バイタルサインを中心に紹介します。

急変には予兆がある

「急変」という言葉をよく耳にしますが、実は急変前に何らかの「予兆」があるとされます。



【院内で心停止した患者さんの特徴】

- 8時間以内に70%で呼吸器症状の増悪
- 6時間以内には66%で異常症状や徴候重症化する前に診察、処置を行えば、予期せぬ心停止・死亡を減少させることができます。

酸素濃度（SpO2）低下より先に呼吸数が増加

呼吸数の測定頻度は他のバイタルサインに比べて非常に少ない傾向にあります。呼吸器疾患に限らず、呼吸数は状態が悪化すると敏感に変化するため、**毎日測定して比較**することが大切です。「どこかおかしい」や、「呼吸が苦しうだけれど酸素濃度（SpO2）98%だから大丈夫」と判断した経験はないでしょうか。一見大丈夫そうに見えますが、呼吸数を測定すると30回/分以上ということがあります。これは体内の酸素濃度（SpO2）が低下しないよう**呼吸数を増加**させ、体内の酸素量を維持しようとする働きによるものです。更に状態が悪化すると、体内の酸素量を呼吸数で補えなくなり酸素濃度（SpO2）は低下してしまうので、変化を見逃さないためにも日頃から呼吸数を測定しておくことが大切です。



血圧低下より脈拍数（心拍数）変化が早期

脈拍（心拍）数が速いけれど「血圧が保っているから大丈夫だろう」という場面に遭遇したことはないでしょうか。これは、臓器への血液量を維持するために**冷や汗**をかいて血液を集めたり、**脈拍（心拍）数を増加**させて循環血液量を補おうとするためです。血圧は重要臓器を守るために最後まで正常を保とうとしますが、調整困難になると維持できなくなり低下してしまいます。例えば出血した場合1.5~2Lの血液が失われる頃に血圧が低下し始めます。これは体内の血液量のおよそ50%が失われたことを意味し、気が付いた時には非常に危険な状態に陥っています。様々な理由で血圧が低下しますが、いずれも早期に脈拍（心拍）数の変化に気がつくことが大切です。



されど「せん妄」

「〇〇さん、今日は落ち着かないね」という患者さんが翌日急変した経験はないでしょうか。せん妄とは身体的異常や薬物の使用を原因として短時間で発症する**意識障害（意識変容）**で、失見当識などの認知機能障害や幻覚妄想、気分変動、低活動などのさまざまな精神状況を呈する病態です。何らかの原因により脳に十分な血液が回らない場合にせん妄は出現します。一見認知症と間違われやすいですが、せん妄は夕方になると落ち着かなくなる等**急性的変化**で、認知症は徐々に発症することが特徴です。もし、せん妄を発症したら原因を検索することが重要です。



日頃から**呼吸・循環・意識**を観察し「何かおかしい」を
早期の診察・受診に繋げましょう。

一関市

『医療と介護の連携マニュアル』の情報共有（退院）シートについて

令和2年に高齢化率が36.8%となった一関市では医療機関、介護サービス事業所、行政等がそれぞれの役割や連携を強化し地域医療体制の充実を図っています。磐井病院患者支援センターは病院と地域をつなぐ窓口として院内外の関連職種と連携し、患者さんが安心して住み慣れた地域へ戻れるよう、綿密な情報交換や意向確認を行い、入退院支援を行っています。

平成30年に「医療と介護の連携マニュアル」が改定され、情報共有シート（くらしのシート・退院シート）が運用されているところですが、令和4年度診療報酬改定に伴い、他施設への転院や在宅医療に移行する患者さんへは「看護及び栄養管理等に関する情報（様式50）」を参考に文書の作成と説明が求められ、当院では、「退院情報シート」の見直しを行いました。このシートは、一関市地域医療・介護連携推進事業の一環として地域医療体制の充実を図るため、連携に係るシートとして「くらしのシート」と共に、一関市のホームページにも掲載されており、医療と介護だけではなく、医療と医療を結ぶ病病連携においても重要なツールとして活用しています。

現在の医療はしっかりと病気を治す「病院完結型」ではなく病気と共に生きる生活を支える「地域完結型医療」です。短い入院期間での情報を正確に、迅速に伝えることにより、シームレスな連携となります。適切な医療を提供するためにも機能分化や連携強化は必須であり、患者さん、家族を中心とした取組みを実践していきます。

退院情報提供シート(退院シート)	
情報提供先:	作成日 年 月 日
病棟	記録者名
患者氏名	病棟部長
入退院日	入院日: 退院日(予定日):
診療科	担当医
主たる傷病名	
主な既往歴	アレルギー: <input type="checkbox"/> 薬剤() <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 食物(禁止食品項目参照) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他()
入院中の経過	
継続する看護上の問題等	
病状等の説明内容と受け止め	医師の説明 患者 家族 氏名: (続柄)
患者・家族の今後の希望	患者 家族 氏名: (続柄)
目標や、大切にしていること	
家族構成(同居の有無キーパーソン等)	<input type="checkbox"/> 独居 <input type="checkbox"/> 同居者: <input type="checkbox"/> 緊急連絡先(氏名・続柄・連絡先) ① (続柄) 連絡先 ② (続柄) 連絡先
介護者等の状況	主介護者: (続柄) 対応可能な時間: <input type="checkbox"/> 常時 <input type="checkbox"/> 日中のみ <input type="checkbox"/> 夜間のみ <input type="checkbox"/> 介護者や協力者がいない
日常生活自立度	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> J1 <input type="checkbox"/> J2 <input type="checkbox"/> A1 <input type="checkbox"/> A2 <input type="checkbox"/> B1 <input type="checkbox"/> B2 <input type="checkbox"/> C1 <input type="checkbox"/> C2
認知症自立度	<input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> IIa <input type="checkbox"/> IIb <input type="checkbox"/> IIIa <input type="checkbox"/> IIIb <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> M
社会資源	退院後の医療機関(医療機関名) 要介護認定 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 申請中 <input type="checkbox"/> 要支援() <input type="checkbox"/> 要介護() <input type="checkbox"/> 区分変更中 <input type="checkbox"/> 事業対象者 介護支援専門員 担当者: (事業所名) 訪問看護ステーション 担当者: (事業所名) 相談支援専門員 担当者: (事業所名) 障害福祉サービス
生活等の状況	清潔 入浴: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) <input type="checkbox"/> 全身入浴 <input type="checkbox"/> 部分浴 <input type="checkbox"/> シャワー浴 <input type="checkbox"/> 機械浴 <input type="checkbox"/> 清拭(最終実施日 月 日) 口腔ケア: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) 更衣: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) 活動 座位: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) 移乗: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) 移動: <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) 方法: <input type="checkbox"/> 杖 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 車椅子 <input type="checkbox"/> 車椅子自走 <input type="checkbox"/> ストレッチャー マットレスの種類: () 排泄 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助(介助方法) 方法: <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> ポータブルトイレ <input type="checkbox"/> 尿器 <input type="checkbox"/> 便器 <input type="checkbox"/> ハビリソルト <input type="checkbox"/> オムツ <input type="checkbox"/> 導尿 <input type="checkbox"/> 膀胱留置カテーテル(詳細は医療処置参照) <input type="checkbox"/> ストーマ(詳細は医療処置参照) 排泄機能障害: <input type="checkbox"/> 原意がない <input type="checkbox"/> 尿失禁 <input type="checkbox"/> 便秘がない <input type="checkbox"/> 便失禁 排便回数: ()日()回 最終排便: 月 日

食事	<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 一部介助(<input type="checkbox"/> セッティング <input type="checkbox"/> その他:) <input type="checkbox"/> 全介助
栄養補給法	<input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経管栄養(詳細は医療処置参照) <input type="checkbox"/> 静脈 回数: 回/日 <input type="checkbox"/> 朝 <input type="checkbox"/> 昼 <input type="checkbox"/> 夕 <input type="checkbox"/> その他()
食種	食種()
食事形態	主食: <input type="checkbox"/> 米飯 <input type="checkbox"/> 軟飯 <input type="checkbox"/> 粥/パン <input type="checkbox"/> ソフト食 <input type="checkbox"/> その他() 副食: <input type="checkbox"/> 常菜 <input type="checkbox"/> 軟菜 <input type="checkbox"/> きざみ <input type="checkbox"/> ミキサー <input type="checkbox"/> ソフト食 <input type="checkbox"/> その他() 嚥下: <input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 飲み込み時間に時間がかかる <input type="checkbox"/> むせあり とろみ調整: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有() 摂取量: <input type="checkbox"/> 主食(<input type="checkbox"/> 全量 <input type="checkbox"/> 2/3 <input type="checkbox"/> 1/2 <input type="checkbox"/> 1/3 <input type="checkbox"/> 少量) <input type="checkbox"/> 副食(<input type="checkbox"/> 全量 <input type="checkbox"/> 2/3 <input type="checkbox"/> 1/2 <input type="checkbox"/> 1/3 <input type="checkbox"/> 少量) <input type="checkbox"/> 食べムあり 嚥術: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 股入前 <input type="checkbox"/> 部分入後(<input type="checkbox"/> 一部のみ <input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 下)
禁止食品	食物: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 アレルギー: <input type="checkbox"/> 牛乳 <input type="checkbox"/> 乳製品 <input type="checkbox"/> 卵 <input type="checkbox"/> 小麦 <input type="checkbox"/> そば <input type="checkbox"/> 落花生 <input type="checkbox"/> えび <input type="checkbox"/> かにか <input type="checkbox"/> 青魚 <input type="checkbox"/> 大豆 <input type="checkbox"/> その他() 冷蔵、風通し、乾燥による事項: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 納豆 <input type="checkbox"/> グレープフルーツ <input type="checkbox"/> その他()
睡眠	<input type="checkbox"/> 良眠 <input type="checkbox"/> 不眠 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 薬剤(薬剤名:) <input type="checkbox"/> 常用 <input type="checkbox"/> 不眠時のみ
精神	<input type="checkbox"/> 特記事項なし <input type="checkbox"/> 抑うつ <input type="checkbox"/> せん妄 <input type="checkbox"/> その他()
状態	<input type="checkbox"/> 認知症(症状、行動等)
安全対策	<input type="checkbox"/> 離床センサー() <input type="checkbox"/> 抑制() <input type="checkbox"/> その他()
運動	麻痺: <input type="checkbox"/> 右上肢 <input type="checkbox"/> 左上肢 <input type="checkbox"/> 右下肢 <input type="checkbox"/> 左下肢
機能	言語障害: (<input type="checkbox"/> 構音障害 <input type="checkbox"/> 失語症) 視力障害: (<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左) 聴覚: (<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左) 補聴器使用 (<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左)
医療処置	点滴・注射: <input type="checkbox"/> PICC(末梢挿入型中心静脈カテーテル) <input type="checkbox"/> CVCC(中心静脈カテーテル) <input type="checkbox"/> 末梢静脈ライン <input type="checkbox"/> 静注CVポート 挿入部位: <input type="checkbox"/> 自己注射(薬品名、単位、回数等)
挿入物の状況	経管栄養: <input type="checkbox"/> 経鼻 <input type="checkbox"/> 胃管 <input type="checkbox"/> 腸管(サイズ: Fr cm) <input type="checkbox"/> その他() 投与内容: 最終交換日: 月 日 次回交換日: 月 日
膀胱留置	種類: サイズ: Fr 固定水: ml 最終交換日: 月 日 次回交換日: 月 日
カテーテル	透析: 週 回(実施病院) <input type="checkbox"/> ショント(部位) <input type="checkbox"/> 腹膜透析
呼吸管理	吸引回数: /日 酸素療法: (<input type="checkbox"/> 経鼻 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> その他() 酸素流量: (常時 L 労作時 L 安静時 L) 気管切開: 気管内チューブ(種類 サイズ) 最終交換日: 月 日 次回交換日: 月 日 人工呼吸器: 機種、設定、モード ()
創傷処置	<input type="checkbox"/> 褥瘡処置 部位・深度・サイズ等() 処置方法: <input type="checkbox"/> 手術創等 部位() 処置方法:
ストーマ	<input type="checkbox"/> コロストミー <input type="checkbox"/> イレオストミー <input type="checkbox"/> 回腸導管 <input type="checkbox"/> 尿管皮膚瘻 <input type="checkbox"/> 腎瘻 <input type="checkbox"/> 膀胱瘻 ケア 装置の種類: 装置品番 サイズ() 最終交換日: 月 日 交換頻度: ケア方法:
薬剤情報	薬学管理 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 一部介助(内容:) <input type="checkbox"/> 全介助 他院処方薬 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 薬剤情報参照 <input type="checkbox"/> お薬手帳参照
備考欄(留意点等)	

第15回『両磐地域緩和ケア医療従事者研修会』 受講者募集のお知らせ

毎年開催しております本研修会は、

○痛みをはじめとした、がん等に伴って生じる苦痛
に対して、緩和ケアの基本的な知識・技術・態度
を修得し、実践できる

○解決が難しい問題を抱え込まず、緩和ケアチーム
などの多職種チームに相談することができる、また
相談するタイミングを判断することができる

ことを目標とする研修会です。

疼痛コントロールや終末期医療だけでなく、地域医療なども含む幅広い内容となっており、「ワークショップ」や「ロールプレイ」を多く取り入れ、研修者全員が積極的に参加するように工夫されていますので、がんに関わる医療・介護従事者の皆さんに幅広く受講いただきますようご案内いたします。



=====
○開催日時：令和5年9月23日（土） 9：00～17：20

※事前にインターネットでの『e-learning』受講が必要です。

○会場：磐井病院 2階 多目的会議室

○参加対象：医師・歯科医師、薬剤師、看護師、MSW、放射線技師、検査技師等の医療職

○定員：20名

○参加費：無料（昼食等として1,000円を負担）

○修了認定：厚生労働省健康局長及び岩手県知事名で『修了証書』が交付されます。

○申し込み：病院ホームページをご覧ください、または下記までご連絡ください
（受講案内をお送りします）

⇒磐井病院 地域医療福祉連携室 TEL：0191-23-3452（内8105）

令和5年度（2023）お盆期間の診療体制について

外来休診日：8月14日（月）・15日（火）

◇当日は、救急患者のみ受付・診療となります。（通常の休日と同じ体制）

◇医療機関からのFAX紹介や、電話での外来予約受付も休止しますので、御了承願います。



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>
公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>

連携いawaii

令和5年9月
第41号
岩手県立磐井病院

磐井病院では 『患者支援センター』を設置しています

- 患者・家族の方、また医療・介護関係者などに関わらず、来院した方の“総合相談窓口”として、1階受付となりに設置しています。
- 入院・退院支援や介護関連のご連絡、様々な医療相談など、どのような事でも窓口は『患者支援センター』でお受けします。
- 看護師／MSW（医療ソーシャルワーカー）が常駐していますので、来院の際はお気軽にお声がけください。



相談窓口／電話での連絡・問合せ先

【転院及び入院中の患者さんについて】

- ・患者支援センターが窓口となります。
入院支援室（TEL：1257） 退院支援室（TEL：1267）
医療福祉相談室（TEL：1258） 連携室事務（TEL：1354）

【外来通院の患者さんについて】

- ・**当日の受診**に関するもの（受診希望、キャンセル、急変）
午前：総合案内へ
午後：各外来 又は 救急室へ
- ・**当日受診以外**の相談、連絡等
14時以降に各外来、もしくは患者支援センター（医療福祉相談室）のMSWへ



<岩手県立磐井病院 理念>

地域と連動し、患者さんにやさしく、質の高い安全な医療を提供します

<岩手県立磐井病院 基本方針>

- ①十分な説明と同意のもと、患者さん中心の医療を提供します。
- ②常に最新の医療を求め、高度でかつ専門的な医療を提供します。
- ③患者さんの安全を最優先としたチーム医療を提供します。
- ④地域医療と連動し、患者さんの健康増進、救急医療の充実に努めます。
- ⑤豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人の共育を行いながら育成します。
- ⑥職員一人一人が自覚を持って健全な病院経営に努めます。
- ⑦新しいことはデータに従って理論的に行い、必ず施行後に検証を行います。

Contents

- 患者支援センターから・・・1・2
- 認定看護師から
『腎臓病と透析について』・・・3
- 連携施設訪問再会のお知らせ・・・4
- 紹介率・逆紹介率・・・4



2023 地域医療福祉連携室（患者支援センター）



入院支援室 (TEL:1257)

後列 (左から)

熊谷恵理 (看護師)、阿部真於 (看護師)、
鈴木めぐみ (医療クラーク)

前列 (左から)

佐藤知子 (看護師)、千葉美穂 (看護師長補佐)、
鈴木志穂里 (主任看護師)



退院支援室 (TEL:1267)

左から

大川みか (副総看護師長)、小野寺真理 (主任看護師)
千葉里美 (看護師)、藤原道代 (主任看護師)、
伊藤由美子 (主任看護師)



医療福祉相談室 (TEL:1258)

後列 (左から)

渡邊純子 (上席医療社会事業士)、千葉令子 (MSW)、
菅原拓也 (同)

前列 (左から)

鈴木南風 (MSW)、千葉香純 (同)、佐藤朱 (同)



連携室事務 (TEL:1354)

後列 (左から)

齋藤諒子 (事務補助員)、石川英樹 (同)

前列 (左から)

鈴木志津香 (事務局次長兼地域医療福祉連携室次長)
柿木洸弥 (主事)、長倉学 (主査)

腎臓病と透析について



透析看護認定看護師：三浦真奈美



私は、令和元年に透析看護認定看護師の資格を取得しました。透析看護認定看護師の役割は、血液透析治療を管理し適切なケアを提供することです。専門知識・スキルをもとに安全でスムーズな透析治療を行うことはもちろんのこと、合併症の予防や早期発見にも留意しています。透析療養中、導入前の患者さんとその家族から治療法や生活についての相談を受け、不安をできるだけ軽減し、治療効果を引き出せるようサポートする役割を担っています。

腎臓病について

慢性腎臓病は慢性に経過するすべての腎臓病を指します。原因は複数ありますが、生活習慣病（糖尿病、高血圧など）や慢性腎炎が代表的で、日本では約1,330万人（成人の8人に1人）いると考えられ、新たな国民病ともいわれています。

初期は自覚症状がなく、病気が進行すると、夜間尿、貧血、倦怠感、むくみ、息切れなどの症状が現れてきます。これらの症状が自覚されるときには、すでに病状が進行している場合が多いといわれています。体調の変化に気をつけているだけでは、早期発見が難しいのがこの病気の特徴です。早期発見のためには、定期的な検査が有効です。腎機能が低下し、15%以下になると腎代替療法が必要となり、現在34万人以上の患者さんが透析治療を受けています。

透析について

透析には大きく血液透析と腹膜透析があります。違いをお話しします。



血液透析（HD）は、血液を体外に取り出し、透析器に循環させ体内に戻すことで血液を浄化する方法です。通常、週3回医療機関に通院し、1回3時間～5時間かけて行なわれます。水分制限や食事制限、血液透析に必要な血管（シャント）管理について患者さんが自己管理できるように指導しています。

腹膜透析（PD）は自分の体の中の「腹膜」を利用して血液をきれいにする方法です。自分自身で、または介助者にサポートしてもらいながら、自宅や会社で行います。寝ている間に機械を使って自動的に行う方法（APD）と、日中に数回透析液を交換する方法（CAPD）があります。治療は毎日行い、通院は月に3～2回程度です。患者自身が行うので、清潔操作を遵守し手技の習得ができるよう指導する必要があります。

患者に寄り添う看護



慢性的に低下した腎機能の回復は難しいため、早い段階で予防および治療に着手し、それ以上の腎機能の低下を防ぐ必要があります。また、透析患者さんは厳しい制限があるなかで治療を受けています。制限を守るよう指導することも大切ですが、守れないのはなぜか、生活背景をよくアセスメントし、患者さんに寄り添いながら共に療養生活を考え、支援したいと思います。

『連携施設訪問』を再開しました

当院では『顔の見える連携』を目指し、平成28年7月より地域医療福祉連携室（患者支援センター）職員による『連携施設訪問』を行い、延べ200箇所以上の医療機関・施設等を訪問させていただきました。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の流行を受け中断していましたが、当該感染症の5類移行に伴い、今年度から訪問を再開しております。



- 患者支援センターの看護師・医療ソーシャルワーカー（MSW）・事務職員等が、毎月1回：4～5施設ずつのペースで、事前に日程調整のうえ伺います。
- 一関市内を中心に、病院、診療所、個人医院、介護支援事業所・支援センター、訪問看護ステーションなど幅広く訪問させていただきます。
- 訪問時には、病院へのご意見・ご要望などを実際に関わっている先生方や職員の方から直接お聞きし、それを元に病院業務の改善に努めるとともに、併せて患者紹介・逆紹介の推進依頼や入退院支援等にかかる意見交換も行っています。

訪問の際には忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



紹介率・逆紹介率

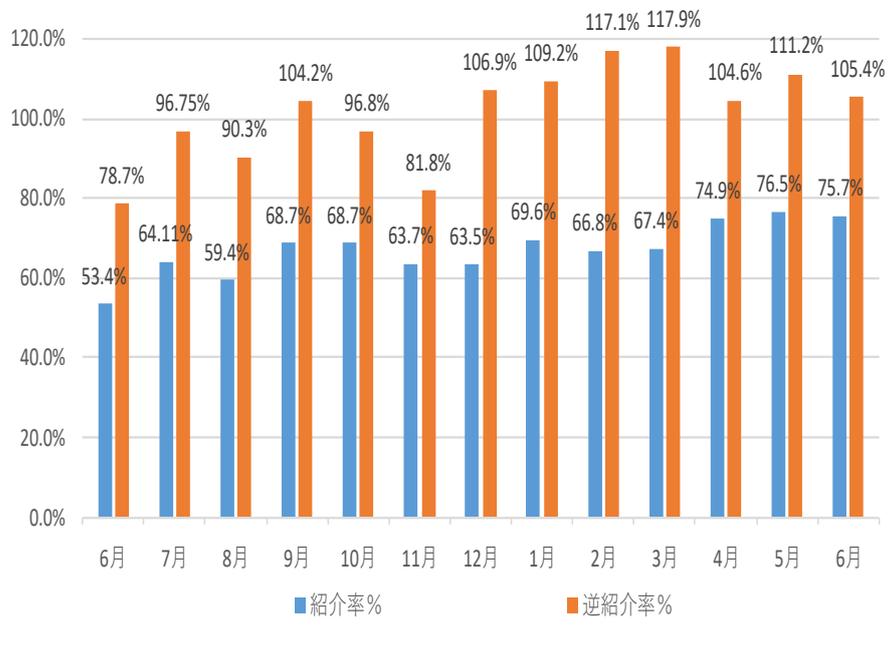
当院は、平成25年10月より地域医療支援病院の指定を受けております。患者に身近な地域で医療を提供されることが望ましいという観点の元、地域の中核病院として各医療機関と適切な連携を図っていくよう努めております。

そうした中で、紹介率・逆紹介率は、第一線の地域医療を担う、かかりつけ医を支援する一指標として用いられており、地域医療支援病院の承認要件（当院では紹介率50%越え、かつ、逆紹介率が70%を越えること）ともなっています。



皆様のご協力のおかげで、今年度の紹介率・逆紹介率の承認要件を満たすことができ、誠にありがとうございます。

202206-202306 紹介率・逆紹介率の推移



岩手県立磐井病院



【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
 電話 (0191) -23-3452 Fax (0191) -23-9691
 連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
 病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>
 公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>



連携いいわい



令和6年1月

第42号

岩手県立磐井病院

『磐井病院 市民講演会（一関市医介連研修会）』を開催しました。

去る12月2日(土)、一関市の「医療と介護の連携連絡会(通称:医介連)」の研修会との共催で、一般市民や医療・介護関係者など幅広く参加いただける市民講演会を企画・開催しました。

当日は講演を2部構成とし、第1部は『転ばぬ先の骨』と題して 高齢者の骨折をテーマとした医療講演を行い、中村第1整形外科長が「骨粗しょう症」について、実際のX線写真や検査結果を事例に、疾患の原因・治療・予防といった基本知識を分かりやすく説明しました。また首藤理学療法士からは「転倒予防のポイント」を実技を交えながら紹介しました。

続く第2部では、これまで「当院から地域にお伝えしたいこと」を発信する機会がなかったことから、「磐井病院・両磐地区の現状と課題」として、佐藤院長より当院の概要・特徴、医師不足・新型コロナウイルス・医師の働き方改革への対応や今後の展望まで、盛り沢山の内容でご説明しました。

事前申込制としましたが、一般・介護関係の方など併せて90名を超える参加をいただき、会場の一関保健センターはほぼ満席となりました。

また今回の来場者アンケートで大多数の方から「参考になった/大変良かった」との声を頂戴しましたので、今後第2回の開催を検討しております。

講演のテーマについて、地域の皆さまのニーズに沿って開催したいと考えていますので、ご意見・ご要望がありましたら下記までお寄せください。



● 病院代表メールアドレス

EA1007@pref.iwate.jp

● 地域連携室FAX番号

0191-21-3990(直通)

<岩手県立磐井病院 理念>

地域と連動し、患者さんにやさしく、質の高い安全な医療を提供します

<岩手県立磐井病院 基本方針>

- ①十分な説明と同意のもと、患者さん中心の医療を提供します。
- ②常に最新の医療を求め、高度でかつ専門的な医療を提供します。
- ③患者さんの安全を最優先としたチーム医療を提供します。
- ④地域医療と連動し、患者さんの健康増進、救急医療の充実に努めます。
- ⑤豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人の共育を行いながら育成します。
- ⑥職員一人一人が自覚を持って健全な病院経営に努めます。
- ⑦新しいことはデータに従って理論的に行ない、必ず施行後に検証を行ないます。

Contents

- 磐井病院市民講演会開催・・・1
- 認定看護師から『9人に1人乳がんになる!?早期発見が大事!』・・・2
- 「岩手県営医療貢献賞」受賞・・・3
- 第15回両磐地域緩和ケア医療従事者研修会・・・3
- 連携ボックスの利用状況・・・4

『9人に1人乳がんになる!?早期発見が大事!』

1. 女性の9人に1人がかかるといわれている「乳がん」

国立研究開発法人国立がん研究センターが発表している2019年がん統計(年)によると、日本人女性のかかりやすいがんの順位は以下のようになっています。



1位	2位	3位	4位	5位
乳がん	大腸がん	肺がん	胃がん	子宮がん

「がん情報サービス」によると、乳がんにかかる人数は97,812人(2019年)、死亡者数14,779人(2020年)と報告されています。乳がんは女性のかかりやすいがんで1位です。9人に1人がかかり、年々増え続けています。一方で、乳がんは、早期発見・治療すれば治癒率が高いがんでもあります。

2. 乳がんになりやすい方の共通点



乳がんには「エストロゲン」という女性ホルモンが関わっていると考えられています。エストロゲンにさらされている期間が長いほど発症リスクが高まり、乳がんになりやすくなります。

- **エストロゲンにさらされている期間が長い人**:「初経年齢が早い」「閉経年齢が遅い」「出産歴がない、出産回数が少ない」「初産年齢が遅い」「授乳歴がない」
- **肥満**:脂肪細胞もエストロゲンを作るため
- **遺伝**:血縁者の方に乳がん、卵巣がんの方が多数いる
- **アルコール飲料の摂取**:アルコール飲料に含まれるエタノールおよびその代謝産物であるアセトアルデヒドには発癌性がある
- **喫煙**:たばこの煙には、約60種類の発癌物質が含まれており、喫煙により乳がん発症リスクが増加する

3. 乳がん治療には治療費がかかるため、社会制度を活用しましょう!

乳がん治療には、手術・放射線治療・化学療法・内分泌療法等があります。治療期間には5~10年かかり治療費も大きな負担となります。そのため、社会制度を活用しましょう。一定の金額(自己負担限度額)を超えた分が払い戻される**高額療養費制度**や手術後補整下着に使用するパッドやウィッグを購入した際に各自治体へ助成金を申請できる**がん患者医療用補正具購入費助成金制度**があります。助成金額は各自治体で異なりますが、約2~3万円程度です。くわしい内容は各自治体や病院へ問い合わせください。

乳がんの早期発見のために毎月自己検診を行いましょう!

乳腺のことやがん関連の事でお困りの方はお気軽に岩手県立磐井病院乳がん看護認定看護師佐藤までご相談ください。

「令和5年度岩手県営医療貢献賞」を受賞

去る 11 月 6 日 (月) 令和 5 年度岩手県営医療貢献賞表彰式があり、当院が受賞しました。

この表彰は県営医療の発展に著しく功績をあげた病院及び団体に対して行われるもので、毎年 1 回実施されており、今回は当院を含む 2 団体、1 個人が受賞いたしました。

受賞理由は、クリニカルパスに DPC 出来高比較や原価比較を使用して病院の医療の質と経営の質の向上に努めたこと、両磐圏域のみならず胆江圏域を含めた周産期医療の確保に大きく貢献したこと、昨今のコロナ禍において多くの職員が感染者や濃厚接触者となりながらも救急医療の灯を消さず、感染症の重症患者の受入れに職員一丸となって取り組んだことが評価されたものです。

今回の受賞も、皆様方からの日頃からの支援の賜物であり、当院の運営へのご協力に深く感謝いたします。引き続きより一層の県営医療の発展のため、県立病院間はもとより他の医療機関を含めた連携を図り、地域医療に貢献して参りたいと思います。



第 15 回両磐地域緩和ケア医療従事者研修会(開催報告)

当院は「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、がん診療に携わる医師・歯科医師・看護師等の医療従事者を対象とした研修会を毎年開催しています。開始当初は医師のみを対象としたものでしたが、平成 25 年度 (第 6 回) から、厚労省の方針により医師以外の医療従事者も受講対象となっています。

ここ数年はコロナ禍のため院内職員のみでの開催になっていましたが、今年度数年ぶりに院外へも参加募集したところ多数の応募をいただき、医師 8 名、看護師 5 名、薬剤師 4 名、理学・作業療法士 3 名、MSW (医療ソーシャルワーカー) 2 名と多職種計 22 名の方々が受講されました。

現在のプログラムは「インターネットでの事前オンライン学習 + 集合研修 1 日」に短縮されており、当院を会場に行う集合研修ではコミュニケーションのロールプレイや事例検討でのワークショップ等がメインで、受講者が積極的に参加できる内容になっています。

疼痛コントロールや終末期医療、地域医療などを含む幅広い内容を学べる機会ですので、参加希望の方は地域連携室までご連絡ください。両磐地域内外を問わず、多数のご参加をお待ちしております。



令和4～5年度『連携ボックス』の利用状況

両磐地域の医療機関を中心に医療画像データの送受信を行っている『連携ボックス（一関医療連携ネットワークシステム）』について、直近1年間の利用実績をご報告します。

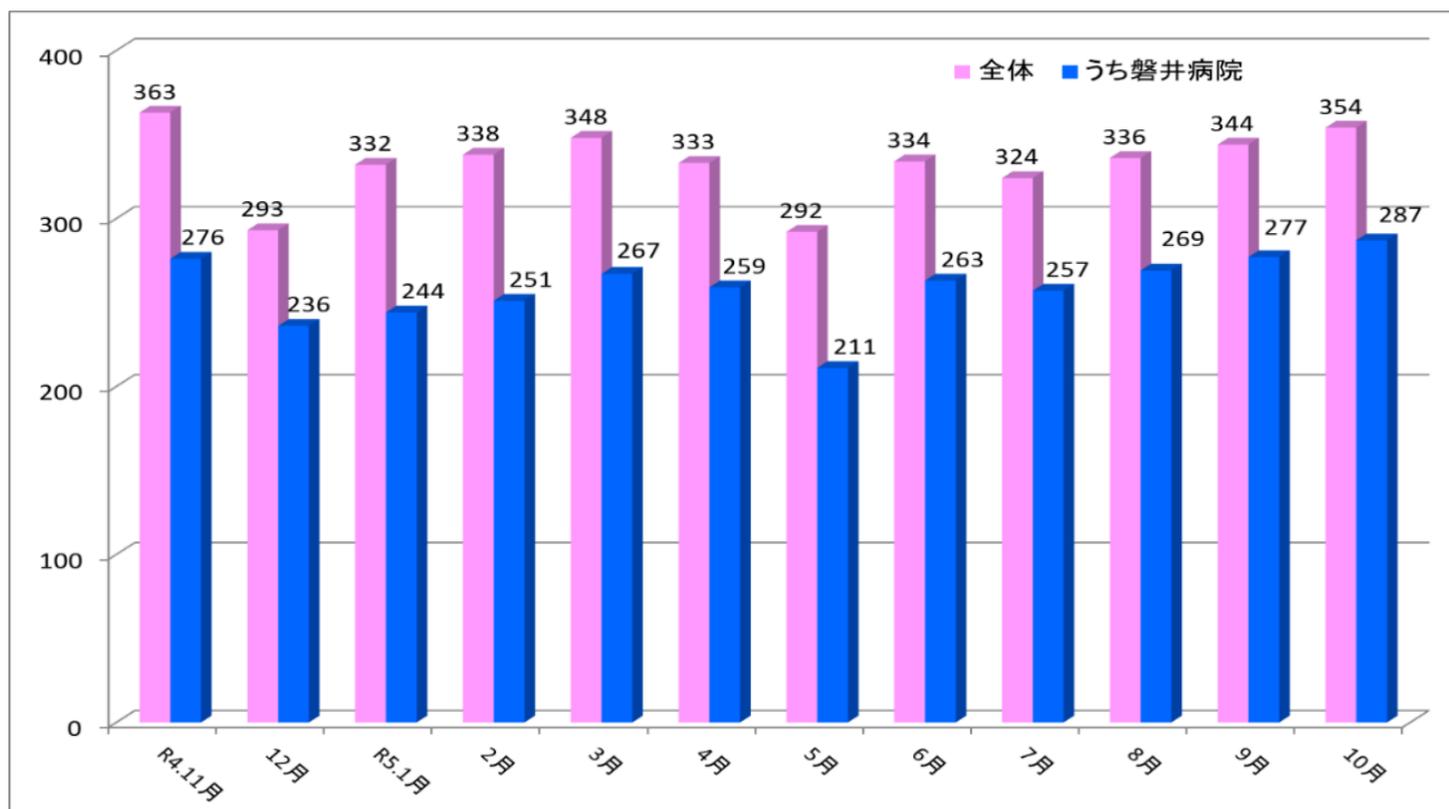
現在の参加医療機関は28施設（10病院18診療所）、全体では月平均で約300～350件程度の利用があり、うち約3/4が磐井病院との連携で使用されている状況でした（グラフ参照）。

また、年間の利用実績では着実に件数が増えており、導入当初（H25）の年間約2,700件から現在では約4,000件と、約1.5倍の増加となっています。

今後も、迅速な患者紹介・診療のため、当該システムを利用した診療情報提供にご協力方よろしくお願いたします。

令和4年11月～令和5年10月 実績

	R4.11月	12月	R5.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	(平均)
全体	363	293	332	338	348	333	292	334	324	336	344	354	3,991	333
うち磐井病院	276	236	244	251	267	259	211	263	257	269	277	287	3,097	258
	76.0%	80.5%	73.5%	74.3%	76.7%	77.8%	72.3%	78.7%	79.3%	80.1%	80.5%	81.1%	77.6%	77.6%



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
 電話(0191)-23-3452
 Fax (0191)-23-9691
 連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
 病院ホームページ:<http://www.iwai-hp.com>
 公式 Facebook:<http://www.facebook.com/iwaihp>